

第4章 火災による死傷者の状況

1 火災による死者

○ 全火災件数は前年と比べて減少していますが、火災による死者（自損を除く）は昨年より1人増加しています。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による死者」とは、火災に起因して死亡した者をいい、「自損行為」とは、放火による自損行為のことをいいます。

年齢区分は右のとおりです。

乳幼児・・・5歳以下	前期高齢者・・・65～74歳
未成年・・・6～19歳	後期高齢者・・・75歳以上
成人・・・20～64歳	

ア 発生状況

火災による死者の年別発生状況は表4-1-1のとおりです。

平成27年中の死者発生状況をみると、全火災件数の2.0%にあたる87件の火災で95人が死亡しており、前年と比べて死者の発生した件数は同数ですが、死者数は増加しています。

表4-1-1 年別発生状況（最近10年間）

年別	全火災件数	火災死者の発生した件数	死者数合計	の自損行為以外死者数	年齢区分					
					乳幼児	未成年	成人	前期高齢者	後期高齢者	不明
18	5,912	108	116(30)	86	3(-)	-(-)	53(22)	26(5)	33(2)	1(1)
19	5,796	132	149(35)	114	2(-)	3(-)	75(27)	28(5)	40(2)	1(1)
20	5,762	120	128(27)	101	2(-)	1(-)	54(18)	21(5)	50(4)	-(-)
21	5,598	118	129(31)	98	1(-)	4(-)	65(22)	16(6)	42(2)	1(1)
22	5,086	93	105(16)	89	2(-)	6(-)	39(10)	25(2)	31(2)	2(2)
23	5,340	78	84(14)	70	-(-)	1(-)	37(10)	12(2)	34(2)	-(-)
24	5,088	103	115(21)	94	3(-)	2(1)	44(15)	23(4)	42(1)	1(-)
25	5,190	80	87(10)	77	-(-)	1(-)	30(7)	16(2)	40(1)	-(-)
26	4,804	87	94(16)	78	-(-)	-(-)	21(7)	25(8)	47(-)	1(1)
27	4,430	87	95(16)	79	2(-)	-(-)	34(10)	24(3)	35(3)	-(-)

注1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

2 () は「自損行為による死者」数を内数で示したものです。

年齢区分別と火災種別、男女別の死者発生状況は、表 4-1-2 のとおりです。

男女別発生状況をみると、男性が 59 人（62.1%）、女性が 36 人（37.9%）となっており、男性が 6 割以上を占めています。自損行為による死者を除いて年齢区分別にみると、男性では成人と 75 歳以上の高齢者（以下「後期高齢者」という。）の比率が高く、女性では後期高齢者の比率が高くなっています。

表 4-1-2 年齢区分と火災種別、男女別死者発生状況

死 者 の 年 齢 区 分		火 災 種 別									男 女 別	
		合 計	建 物 火 災					車 両	航 空 機	そ の 他	男 性	女 性
			小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や					
火 災 件 数		87	78	17	16	40	5	1	1	7	性	性
死 者 数	合 計	95	83	18	18	42	5	1	3	8	59	36
	自 損 行 為 以 外	79	73	18	17	35	3	-	3	3	47	32
	乳 幼 児	2	2	-	-	2	-	-	-	-	1	1
	未 成 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	成 人	24	19	3	5	10	1	-	3	2	17	7
	前 期 高 齢 者	21	21	7	4	10	-	-	-	-	12	9
	後 期 高 齢 者	32	31	8	8	13	2	-	-	1	17	15
	不 明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自 損 行 為 に よ る 死 者		16	10	-	1	7	2	1	-	5	12	4

イ 自損行為による死者

「自損行為による死者」16 人の発生状況について男女別をみると、男性が 12 人（75.0%）、女性が 4 人（25.0%）となっており、男性が 8 割近くを占めています。

年齢別では「成人」が 10 人（62.5%）、65～74 歳の高齢者（以下「前期高齢者」という。）及び「後期高齢者」が各 3 人（18.8%）となっています。

自損行為による死者を火災種別ごとにみると、建物火災での死者が 10 人（62.5%）、建物以外の火災で 6 人（37.5%）となっています。建物火災での死者 10 人のうち 9 人は住宅や共同住宅の自宅で灯油等をかぶり、自らライター等で火をつけて自損を図っています。建物火災以外では、車両内や敷地内において灯油等をかぶり自損を図ったものです。

以下、「自損行為による死者」16 人を除いた 79 人について分析します。

ウ 年齢別発生状況

年齢区分別に死者の発生状況をみると、高齢者の死者は 53 人（67.1％）で、自損行為を除く死者数の 7 割近くを占めています。

エ 火災種別・程度別発生状況

火災種別ごとの死者発生状況をみると、79 人のうち建物火災で 73 人（92.4％）、建物以外で 6 人（7.6％）発生しています。建物火災による死者のうち、部分焼以上に延焼拡大した火災（以下「延焼火災」という。）による死者は 70 人（95.9％）発生しています。

オ 月別火災件数と死者発生状況

月別の火災件数と、自損行為を除いた死者の発生状況を表したのが表 4-1-3 です。

1 月から 3 月及び 12 月は火災の多発する時期で、この期間の火災件数は 1,662 件（37.5％）で、死者数は 46 人（58.2％）となっており 6 割近くを占めています。

高齢者の死者の割合は全体で 67.1％と、7 割近くになっています。

表 4-1-3 月別火災件数と死者発生状況

項 目		月 合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火 災 件 数		4,430	443	358	470	389	424	278	378	320	308	375	296	391
死 者 数	合 計	79	12	16	6	4	4	1	7	4	2	6	5	12
	高 齢 者 以 外	26	3	11	1	1	－	－	5	1	1	－	2	1
	高 齢 者	53	9	5	5	3	4	1	2	3	1	6	3	11
高 齢 者 の 占 め る 割 合 (%)		67.1	75.0	31.3	83.3	75.0	100.0	100.0	28.6	75.0	50.0	100.0	60.0	91.7

注 1 火災件数は、治外法権火災を除いています。

2 死者数は、自損行為による死者を除いています。

カ 時間別発生状況

時間別で死者の発生状況をみると、死者が発生した火災の出火時間帯で最も多いのは、3 時台で 7 人（8.9％）発生しています。そのうち 6 人（85.7％）は高齢者でした。

(2) 出火原因別発生状況

発火源別の経過・火災種別死者発生状況についてみたものが表 4-1-4 で、年齢区分と発火源別にみたものが表 4-1-5 です。

表 4-1-4 発火源別の経過・火災種別死者発生状況

発火源		合計	経過										火災種別						
			火源が落下する	可燃物が接触する	電線が短絡する	トラッキング	接炎する	墜落により発火する	不適当な処に捨てる	その他の	不明	建物					航空機	その他の	
												小計	全焼	半焼	部分焼	ばや			
合計		79	14	8	7	5	3	3	2	7	30	73	18	17	35	3	3	3	
たばこ		16	14	-	-	-	-	-	2	-	-	16	-	5	11	-	-	-	
季節別	電気ストーブ	3	-	2	1	-	-	-	-	-	-	3	1	2	-	-	-	-	
	簡易型ガスストーブ	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	
	電気こたつ	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	
	カーペット類	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	
	ハロゲンヒーター	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	
	ガスストーブ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	
厨房	ガステーブル	4	-	-	-	-	3	-	-	1	-	4	-	-	3	1	-	-	
関連	簡易型ガスこんろ	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-	
	電気こんろ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	
	電気冷蔵庫	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	
差込みプラグ		5	-	-	-	5	-	-	-	-	-	5	3	2	-	-	-	-	
コード		3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	
その他		6	-	-	2	-	-	-	-	2	2	5	2	-	3	-	-	1	
不明		32	-	-	-	-	-	3	-	2	27	27	8	4	13	2	3	2	

注 自損行為による死者を除いています。

表 4-1-5 年齢区分と発火源別死者発生状況

年 齢 区 分	合 計	発 火 源															
		た ば こ	季 節 電 気 ス ト ー ブ	関 連						厨 房 関 連				差 込 み プ ラ グ	コ ー ド	そ の 他	不 明
				電 気 こ た つ	簡 易 型 ガ ス ス ト ー ブ	カ ー ペ ット 類	ハ ロ ゲ ン ヒ ー タ	ガ ス ス ト ー ブ	ガ ス テ ー ブル	簡 易 型 ガ ス こ ん ろ	電 気 こ ん ろ	電 気 冷 蔵 庫					
合 計	79	16	3	2	1	1	1	1	4	2	1	1	5	3	6	32	
乳 幼 児	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
未 成 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
成 人	24	2	1	1	-	-	-	1	1	-	1	-	3	2	2	10	
前 期 高 齢 者	21	5	1	1	1	-	1	-	-	1	-	-	-	1	2	8	
後 期 高 齢 者	32	9	1	-	-	1	-	-	3	1	-	1	2	-	2	12	

注 自損行為による死者を除いています。

ア たばこ

たばこによる火災の死者は 16 人（20.3％）で、前年と比べて 5 人減少しています。

年齢別では「後期高齢者」が 9 人（56.3％）、「前期高齢者」が 5 人（31.3％）、「成人」が 2 人（12.5％）となっています。

経過をみると、「火源が落下する」が 14 人（87.5％）と 9 割近くを占めています。

「火源が落下する」のうち、「寝たばこ」によるものが 2 人（14.3％）発生しています。

たばこが出火原因である場合、概ね無炎燃焼を継続してから有炎となり燃え上がるため、火種の落下直後は気付かない場合が多いと考えられます。

事例 たばこにより出火し 2 人が死亡した火災（1 月・足立区）			
構造・用途等	耐火造 5/1 複合用途	出火階・箇所	3 階・居室
焼 損 程 度	建物部分焼 1 棟 50 m ² 等焼損 死者 2 人		
この火災は、火元者（60 歳代男性）が喫煙後、たばこの火種が敷き布団に落下し着火し、無炎燃焼を継続した後に出火したものです。火元者と同居している女性（70 歳代）の 2 人が救出され病院へ搬送されましたが、その後死亡しています。火元者は病気により歩行が困難であったため、避難に影響があったと思われます。			

イ 季節関連器具（暖房器具）

季節関連器具による火災の死者は、前年と比べて1人減少の9人（11.4%）発生しており、このうち「電気ストーブ」が3人（33.3%）、「簡易型ガスストーブ」が2人（22.2%）などとなっています。

季節関連器具による火災の経過をみると、ストーブに衣類や紙製品等の可燃物が接触したりしたものが6人（66.7%）などとなっています。

ウ 厨房関連器具

厨房関連器具による火災の死者は、前年と比べて2人増加の8人（10.1%）発生しており、このうち「ガステーブル」が4人（50.0%）、「簡易型ガスこんろ」が2人（25.0%）となっています。

厨房関連器具による火災の経過をみると、「接炎する」が3人（37.5%）、「可燃物が接触する」が2人（25.0%）などとなっています。

エ その他

「差込みプラグ」による火災の死者が5人（6.3%）、「コード」による火災の死者が3人（3.8%）などとなっています。

2 火災による負傷者

○ 火災による負傷者は前年と比べて 37 人増加しています。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による負傷者」とは、火災に起因して負傷した人をいいます。

ア 発生状況

火災による負傷者の年別発生状況は表 4-2-1 に示すとおりです。

表 4-2-1 年別発生状況（最近 10 年間）

年 別	合 計	負 傷 者 区 分			
		一 般 人			消防活動従事者
		小 計	自損行為以外	自 損 行 為	
18	1, 234 (12)	1, 211 (12)	1, 195 (12)	16 (-)	23
19	1, 230 (12)	1, 207 (12)	1, 191 (8)	16 (4)	23
20	1, 187 (8)	1, 162 (8)	1, 141 (8)	21 (-)	25
21	1, 025 (9)	1, 003 (9)	983 (8)	20 (1)	22
22	932 (9)	913 (9)	897 (7)	16 (2)	19
23	962 (13)	944 (13)	918 (11)	26 (2)	18
24	832 (7)	814 (7)	802 (7)	12 (-)	18
25	781 (3)	763 (3)	744 (3)	19 (-)	18
26	790 (8)	777 (8)	761 (7)	16 (1)	13
27	827 (4)	815 (4)	804 (4)	11 (-)	12

注 1 消防活動従事者とは、消防職員、消防団員などの消防活動等に従事した者の区分です。

2 ()内は、30 日死者(火災による負傷者のうちで、48 時間を超え 30 日以内に死亡した人)を内数で示したものです(「30 日死者」の項を参照)。

平成 27 年中に、負傷者が発生した火災は 602 件で、827 人が負傷しており、前年と比べて負傷者の発生した火災件数は 23 件増加しましたが、負傷者は 37 人増加しています。このうち一般人の負傷者は 815 人(98.5%)で前年と比べて 38 人増加し、消防活動従事者(消防職員・消防団員などの消防活動等に従事した者)が 12 人(1.5%)で、1 人減少しています。

また、負傷者の発生率(負傷者の発生した火災が、総火災件数に占める割合)は 13.6%で、前年と比べて 1.5 ポイント増加しています。

3 人以上の負傷者が発生した火災は 48 件で、193 人が負傷しており、前年と比べて、火災

件数は5件、負傷者が15人それぞれ増加しています。これらの火災では、住宅や共同住宅から出火し、避難の際に廊下や階段などで煙を吸って負傷するケースや、初期消火の際に負傷するケース、更に就寝中で発見が遅れ、煙を吸うなどして負傷するケースが多くみられます。なお、ここからは火災による負傷者のうち、消防活動従事者（12人）及び自損行為による負傷者（4人）を除いた804人について分析します。

イ 火災種別・年齢区分と受傷程度の状況

火災種別と年齢区分別に受傷程度をみたのが表4-2-2です。

火災種別ごとに負傷者の発生数をみると、建物火災での負傷者は744人（92.5%）と大部分を占めています。さらに建物火災を火災程度別でみると、部分焼以上の延焼火災では377人（50.7%）発生し、建物火災の5割以上を占めています。

受傷程度別でみると、「軽症」が514人（63.9%）で最も多く、負傷者の6割以上を占めています。

火災による負傷者を、「高齢者」と「高齢者以外」でみると、「高齢者以外（不明を含む。）」は545人（67.8%）で、「高齢者」は259人（32.2%）となっており、「高齢者」の割合は前年と比べて0.3ポイント減少しています。

表 4-2-2 火災種別・年齢区分別受傷状況

受 傷 程 度	合 計	火 災 種 別									年 齢 区 分				
		建 物					車 両	航 空 機	そ の 他	乳 幼 児	未 成 年	成 人	前 期 高 齢 者	後 期 高 齢 者	
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
合 計	804	744	54	91	232	367	13	3	44	10	31	504	142	117	
重 篤	22	20	3	6	8	3	-	1	1	-	-	11	4	7	
重 症	96	92	7	14	44	27	1	-	3	-	-	49	26	21	
中 等 症	172	167	16	17	56	78	1	-	4	2	3	107	26	34	
軽 症	514	465	28	54	124	259	11	2	36	8	28	337	86	55	

注 消防活動従事者及び自損行為による負傷者を除いています。

事例 1 多数の負傷者が発生した火災（5月・江戸川区）			
構 造 ・ 用 途 等	防火造 3/0 住宅	出火階・箇所	2 階・台所
焼 損 程 度	建物半焼 1 棟 部分焼 2 棟 ぼや 1 棟 76 m ² 等焼損 負傷者 7 人		
この火災は、住宅 2 階台所で使用していたテーブルタップのコードが何らかの要因により短絡し出火したものです。深夜帯に出火し、更に住警器が未設置であったため発見が遅れました。			
この火災により、出火した建物の居住者 4 人が 2 階から避難のため隣接建物に飛び移るなどした際に受傷し、他に出火した建物の隣人 3 人が初期消火の際に受傷しています。			

(2) 出火原因別発生状況

ア 出火原因別受傷時の状態

出火原因別及び負傷者の男女別で受傷時の状態をみたのが、表 4-2-3 です。

出火原因別にみると、「ガステーブル等」が 165 人（20.5%）で最も多く、次いで「たばこ」が 63 人（7.8%）、「大型ガスこんろ」が 55 人（6.8%）などとなっています。

また、これら出火原因ごとの火災 1 件あたりの負傷者発生率は、それぞれ「ガステーブル等」が 30.9%（火災件数 457 件）、「たばこ」が 7.4%（火災件数 664 件）、「大型ガスこんろ」が 36.4%（火災件数 118 件）となっています。

受傷時の状態別でみると、「ガステーブル等」では「家事従事中」に受傷したものが 66 人（40.0%）で最も多く、次いで「初期消火中」は 46 人（27.9%）などとなっています。

「たばこ」では「初期消火中」が最も多く 23 人（36.5%）で、次いで「就寝中」が 17 人（27.0%）などとなっています。

「大型ガスこんろ」では「初期消火中」が 33 人（60.0%）、次いで「作業中」が 14 人（25.5%）などとなっています。

表 4-2-3 出火原因別受傷時の状態

受 傷 時 の 状 態	合 計	主 な 出 火 原 因											男 女 別	
		ガ ス テ ー ブ ル 等	た ば こ	大 型 ガ ス こ ん ろ	放 火	コ ド	電 気 ス ト ー ブ	石 油 ス ト ー ブ 等	ロ ウ ソ ク	ラ イ タ ー	差 込 み プ ラ グ	そ の 他	男 性	女 性
合 計	804	165	63	55	46	32	24	21	18	11	11	358	481	323
初 期 消 火 中	244	46	23	33	18	13	8	4	5	3	-	91	174	70
作 業 中	134	6	1	14	2	8	1	4	4	3	-	91	93	41
家 事 従 業 中	85	66	-	1	-	-	-	1	2	1	-	14	21	64
避 難 中	82	4	8	1	11	7	7	-	2	-	2	40	46	36
就 寝 中	80	12	17	1	2	1	4	6	1	-	7	29	47	33
休 憩 ・ 休 憩 中	36	7	2	1	1	1	-	4	1	2	1	16	21	15
飲 食 中	13	4	1	2	-	-	-	-	-	-	-	6	8	5
火 災 通 報 中	6	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	2	4
救 助 中	5	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	1	4	1
そ の 他 ・ 不 明	119	19	10	1	12	2	2	2	2	1	1	67	65	54

注 消防活動従事者及び自損行為による負傷者を除いています。

男女別では、男性が 481 人（59.8%）、女性が 323 人（40.2%）と男性の受傷割合が高くなっています。

受傷時の状態を男女別でみると、男女共に「初期消火中」の受傷割合が最も高くなっています。次いで男性は「作業中」、「就寝中」の受傷割合が多く、女性は「家事従事中」、「作業中」の受傷割合が多くなっています。

イ 受傷時の状態と受傷の理由

受傷の理由で多いものとしては、「火に接近しすぎた」が 166 人（20.6%）、「消火に手間取った」が 113 人（14.1%）、「自ら消火する能力がなかった」が 85 人（10.6%）などとなっています。

主な事例としては、初期消火中に燃焼物に接近しすぎて火炎にあおられる事例や、タオルや座布団を被せたり、油に水をかけるなどしたために受傷する事例などがあります。これらは、火災を比較的早期に発見し、初期消火をしているにもかかわらず、その手段や方法が適切でなかったために受傷してしまった事例です。

「自ら消火する能力がなかった」ものは、出火時に家事従事中（調理中等）で着衣着火などにより受傷したものです。

事例 2 初期消火中に負傷した火災（8 月・目黒区）			
構造・用途等	耐火造 3/0 共同住宅	出火階・箇所	3 階・居室
焼 損 程 度	建物部分焼 1 棟 29 m ² 等焼損 負傷者 1 人		
この火災は、火元者（60 歳代男性）が天ぷらを揚げるため油を入れた天ぷら鍋をガステーブルにかけ加熱していた際にその場を離れて放置したため、油の発火温度に達して出火したものです。鍋の中から炎が立ち上がっていることに気がついた火元者は、バスタオルで天ぷら鍋を覆いましたが、消火することはできませんでした。建物には消火器が設置されていましたが、火元者は使用しませんでした。 火元者は初期消火の際に気道熱傷により重症を負っています。			

(3) 30 日死者

「30 日死者」とは、火災による負傷者のうちで、48 時間を超えて 30 日以内に死亡した人のことをいいます。平成 27 年中は 4 件の火災で 4 人が亡くなっており、前年と比べて 4 人減少しています。

30 日死者 4 人の内訳は、後期高齢者が 2 人（50.0%）、前期高齢者及び成人が各 1 人（25.0%）となっています。